東北大学実践宗教学寄附講座ニュースレター

Department of Practical Religious Studies
Graduate School of Arts and Letters
Tohoku University

第17号　2022年5月15日

目次

年表　実践宗教学寄附講座10年の歩み 2-9頁
履修証明プログラム2021年度の報告.....10頁
　臨床宗教教養講座（第5期）
　臨床宗教実践講座（第4期）
臨床宗教実践講座修了者の感想 11-17頁
各地の臨床宗教師会の動向 18-23頁
実践宗教学寄附講座活動報告 23頁

実践宗教学寄附講座第4期の延長

実践宗教学寄附講座は、2012年4月1日に３年間の期限で開設されて以来、確保された財源の規模に応じて２年間または３年間の期限つきで更新を続けてきました。現行の第４期は、2019年4月1日～2022年3月31日の３年間の予定で設置されたものでしたが、この度、１年間の延長が認められましたのでご報告します。

講座開設以来10年の歩みを振り返ると、当初その言葉さえ存在していなかった「臨床宗教師」を養成しようという気運がどのように展開・発展してきたのかを辿ることができます。東日本大震災からの復興支援という文脈で多くのメディアによって好意的に報じられながらも、東北大学が単独でプロジェクトを進めていた時期（最初の２年間）を第１段階とするならば、各地に研修修了者有志の臨床宗教師会が成立し、龍谷大学をはじめとする宗教系諸大学機関が臨床宗教師養成に参入する流れができた2016年頃までを第２段階と見ることができるでしょう。そして、2016年に発足した日本臨床宗教師会が翌年に一般社団法人となり、認定臨床宗教師の資格制度が2018年にスタートしたことで、臨床宗教師養成のプロジェクトがひとつのゴールに到達し、臨床宗教師の社会実装とさらなる浸透を課題とする次の第３段階に移行したと考えていいようです。

10年のあいだに東北の被災地の風景は変貌し、また別の地方にも被災地が現われました。「超高齢多死社会」というキーワードも10年歳をとり、さらにコロナウィルスの流行という事態もあいまって、臨床宗教師はますます多様な場面で役割を果たし得る存在となっています。

実践宗教学寄附講座は臨床宗教師の原点と理想を忘れることなく活動を続けていく所存です。これまで多くの方々のご寄附によって支えられてきたことにあらためて感謝を申し上げるとともに、引き続きのご指導とご支援をお願い申し上げます。

2022年5月
実践宗教学寄附講座

実践宗教学寄附講座10年の歩み

2011

03/11　東日本大震災

04/04　「心の相談室」開設（仙台市葛岡斎場）

05/02　新生「心の相談室」記者会見　宮城県政記者クラブ

2012

04/01　**実践宗教学寄附講座開設（第１期）**

心の相談室の活動による被災者支援活動（合同慰霊祭、カフェ・デ・モンク、電話相談、Date FM ラジオCafe de Monk、等）を背景に、東北大学文学研究科初の寄附講座として発足。

鈴木岩弓（主任教授・兼任）

高橋原（准教授）・谷山洋三（准教授）

寄附者：東北ディアコニア、世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会、日本基督教団、他

05/22　世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会主催
「復興に向けた宗教者円卓会議」（仙台国際センター）

「臨床宗教師」を提唱した岡部健先生（9/27 逝去）

09/01　『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第1号

09/08　日本宗教学会パネル発表「公共空間における宗教的ケアのあり方：臨床 宗教師の可能性」（皇學館大学）
（高橋原・谷山洋三・小西達也・森田敬史・鈴木岩弓）

10/23～10/26　**第1回臨床宗教師研修前半・後半（石巻市）**
修了者12名

11/13～11/16

被災地での合宿による集中研修。
写真は旧北上川沿いでの鎮魂行脚。

11/18　故岡部健先生追悼緊急シンポジウム
「医師岡部健が最後に語ったこと」
（東北大学川内萩ホール ）

登壇者：
竹之内裕文(静岡大学教授)
奥野修司(ノンフィクションライター)
金田諦応(通大寺住職)
高橋悦堂(普門寺副住職)
小西達也(爽秋会チャプレン)
相澤 出(岡部医院研究員)

12/01　ポーリン・ボス博士講演会・ワークショップ
12/03　「あいまいな喪失～行方不明者家族への支援～」
（コラッセふくしま、東京エレクトロンホール宮城）

ポーリン・ボス博士はミネソタ大学教授。著書に『あいまいな喪失とトラウマからの回復』（誠信書房　2015）

12/10　『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第2号
（追悼特集　岡部健先生を偲んで）

2013

01
西出勇志「「臨床宗教師」は闇の中の道標になるか」
『中央公論』(128-1、2013年1月号)

5.5日に1回程度の高頻度で各種メディアに取り上げられました。

02/19
～02/21
第2回臨床宗教師研修前半・後半（石巻市）
修了者12名（累計24名）

03/04
～03/06

南三陸町戸倉海岸にて。

03/02
パネルディスカッション
「東日本大震災と宗教者・宗教学者」
（東北大学マルチメディアホール）

司会・登壇者：
鈴木岩弓(東北大学教授)
山折哲雄（国際日本文化研究センター名誉教授)
鎌田東二(京都大学教授)
金田諦應(通大寺住職)
川上直哉(仙台教会主任教師)
藤波祥子(八重垣神社宮司)
黒住宗道(WCRP日本委員会理事・黒住教副教主)
稲場圭信(大阪大学准教授)
黒崎浩行(國學院大學准教授)
玄侑宗久(作家・福聚寺住職)
岡田真美子(兵庫県立大学教授)
島薗 進(東京大学教授)
蓑輪顕量(東京大学教授)

03/04
日本記者クラブ会見 シリーズ企画「3.11大震災」
鈴木岩弓（司会：露木茂）

04/15
～07/23
第3回臨床宗教師研修（石巻市、仙台市）
修了者14名（累計38名）

第3回研修より医療・福祉施設での傾聴実習をプログラムに採用しました。

05/01
『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第3号

05/07
第1回オンデマンド研修（東北大学文学研究科）

仙台市周辺の現場を持つ宗教者による事例報告とディスカッションを内容とする月例勉強会。第5回まで実施。

06/23
～06/24
第1回フォローアップ研修（仙台市）
参加者11名

第1回、第2回臨床宗教師研修修了者対象。おかべ地蔵芯入れ式なども。

09/08
日本宗教学会パネル発表「公共空間で心のケアを提供する宗教者の養成とその課題」（國學院大學）
（谷山洋三・小西達也・W.キッペス・高橋原）

09/14
～09/20
第6回日本スピリチュアルケア学会/第10回アジア太平洋パストラルケア・カウンセリング学会（東北大学）

第一回のスピリチュアルケア師認定証授与式がありました。

10/15
～12/11
第4回臨床宗教師研修（石巻市、仙台市）
修了者19名（累計57名）

12/01
『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第4号

2014

01/06
スピリチュアルケア講座（第1回）

02/18
スピリチュアルケア講座（第2回）

TKPガーデンシティ仙台勾当台における市民講座。全３回の内容は以下。
・伊藤高章(桃山学院大学教授)「チーム医療におけるスピリチュアルケア」
・小西達也(武蔵野大学教授)「専門職チャプレンから見たスピリチュアルケアの基礎と応用」
・谷山洋三(東北大学准教授)「臨床宗教師のスピリチュアルケア」

03/04
～03/05
第二回臨床宗教師フォローアップ研修（大正大学）

公開講演
窪寺俊之(聖学院大学教授)「宗教家と臨床宗教師」
「臨床宗教師会」の発足に合意。

03/17
スピリチュアルケア講座（第3回）

大阪、熊本、東京で、研修修了者たちが、後の地域臨床宗教師会の萌芽となる活動を開始。

05/01
『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第5号

05/20
～07/30
第5回臨床宗教師研修（石巻市、仙台市）
修了者19名（累計76名）

4月　龍谷大学実践真宗学研究科臨床宗教師研修、鶴見大学先制医療研究センター臨床宗教師育成事業、開始

006/11
～06/14
ICGB2014（香港大学）参加
（谷山洋三・森田敬史・高橋原）

07/12
～07/13
第22回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会
鈴木岩弓「臨床宗教師の社会実装―震災被災地から超高齢多死社会へ」
シンポジウム「臨床宗教師の可能性」

シンポジウム「臨床宗教師の可能性」
登壇者：谷山洋三　高橋悦堂　金田伊代　佐々木慈瞳　高橋悦堂　遠山玄秀　山口龍彦

09/06
日本スピリチュアルケア学会第7回学術大会
プレパネル「臨床宗教教育の可能性」

東北大学の臨床宗教師研修が認定プログラムとして承認。

10/01
『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第6号

10/15
～12/16
第6回臨床宗教師研修（石巻市、仙台市）
修了者19名（累計95名）

閖上に新しく慰霊碑が建立

11/29
ETV特集「臨床宗教師～限られた命とともに」
（出演：高橋悦堂さん）

2015

03/16
～03/17　第3回フォローアップ研修（仙台市浄土宗蓮光寺）
参加約50名　「臨床宗教師連絡協議会」の結成

のちの全国組織発足への基盤となる。

03/17　第3回国連防災世界会議
パブリックフォーラム「震災と宗教者の役割」
（東北大学川内北キャンパス）

登壇者：
高橋原、金田諦応、谷山洋三、細谷朋子、遠山玄秀、田中至道、篠原鋭一

04/01　**実践宗教学寄附講座（第2期）**

新たに２年延長（2017年3月まで）。
寄附者：世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会、他（多くの個人、団体の方にご支援をいただきました）。

05/01　『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第7号

05/19
～07/23　**第7回臨床宗教師研修（石巻市、仙台市）**
修了者 19名（累計114名）

06/08 「そらカフェ」オープン
（上尾中央総合病院緩和ケア病棟）

09/27　関西臨床宗教師フォーラム
「終末期におけるスピリチュアルケア」
（上智大学大阪サテライトキャンパス）

登壇者：谷山洋三、大河内大博
松本峰哲、鍋島直樹

9月 高野山大学臨床宗教教養講座開始

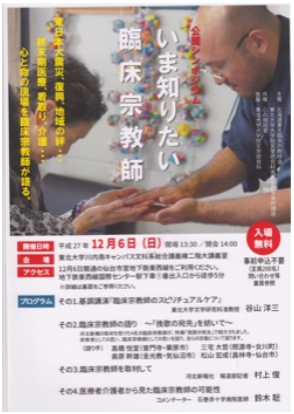
10/05
～12/16　**第8回臨床宗教師研修（石巻市、仙台市）**
修了者 12名（累計126名）

11/01　『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第8号

11/11 大垣市にメディカルシェアハウス
「アミターバ」オープン

12/06　シンポジウム「いま、知りたい臨床宗教師」
（東北大学川内南キャンパス）

登壇者
谷山洋三
髙橋悦堂
奥原幹雄
三宅大哲
松山宏成
村上　俊
鈴木　聡



2016

02/28 **日本臨床宗教師会設立**（島薗進会長）
記念シンポジウム「臨床宗教教育の可能性」
（龍谷大学大宮学舎 ）

「臨床宗教師」という言葉の誕生から約4年で全国組織が結成！

愛知学院大学、高野山大学、種智院大学、上智大学、鶴見大学、東北大学、武蔵野大学、龍谷大学が臨床宗教師養成に足並みを揃える。

02/29 日本臨床宗教師会第1回フォローアップ研修
（京都清水寺大講堂）

05/15 『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第9号

05/16
～07/21 **第9回臨床宗教師研修（石巻市、仙台市）**
修了者 15名（累計141名）

4月 武蔵野大学臨床宗教師・臨床傾聴士養成講座開始

5月 種智院大学臨床宗教師養成講座開始

4月に熊本地震。九州臨床宗教師会による支援活動、カフェデモンクの開催。

10/11
～12/15 **第10回臨床宗教師研修（石巻市、仙台市）**
修了者 11名（累計152名）

谷山洋三著『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』（中外医学社、2016.3）

11/01 『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第10号

2017

02/26
～02/27 日本臨床宗教師会第2回フォローアップ研修
（エル・パーク仙台ギャラリーホール、アークホテル）

02/17 日本臨床宗教師会が一般社団法人となる。

公開講演会「臨床宗教師に求められる力量とは　養成と力量評価、要員認証のしくみを考える」（中原登世子）

教育講演「臨床宗教師の倫理」(大村哲夫)

特別講演「臨床宗教師と私—これまでとこれから」（鈴木岩弓）

海外報告「台湾との臨床宗教交流」（大下大圓、池内龍太郎）

シンポジウム「臨床宗教師と宗教者」（森田敬史、野々目月泉、立野泰博）

04/01 **実践宗教学寄附講座（第3期）**

新たに２年間の設置が認められる。（2019年3月まで）。
木村敏明（主任教授・兼任）
高橋原（教授）・谷山洋三（准教授、兼任）
大村哲夫（助教、兼任）
鈴木岩弓（顧問：教授・兼任）
寄附者：中山身語正宗、他。

04/01 **履修証明プログラム「臨床宗教教養講座」（第１期）**
修了者 29名（うち宗教者15名）

非宗教者も含む社会人対象のインターネット講座。前・後期各10コマ。スクーリング1泊2日×2。受講料10万円。スピリチュアルケア師資格申請にも対応。医療・福祉関係者が受講者の三分の一ほどを占める。

4月 大正大学、愛知学院大学で臨床宗教師養成開始

05/01 『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第11号

05/15 ～07/20 **第11回臨床宗教師研修（石巻市、仙台市）**
修了者 19名（累計171名）

東日本大震災被災地での集中研修の最終回。受講料が有料化（5万円）。

07/18 ～11/29 **資格認定集中コース**
受講者 13名

臨床宗教師研修修了者対象。全3回の合宿と施設実習。受講料5万円。スピリチュアルケア師資格申請に対応。

08/21 臨床宗教教養講座スクーリング１（～08/22）

10/17 ～12/19 **第12回臨床宗教師研修（熊本市）**
修了者 10名（累計181名）

前年の熊本地震の被災者支援への対応を意識して実施が決定された。宗教者に限定した被災地集中型研修の最終回。
臨床宗教師研修全12回の修了者累計181名のうち仏教系が150名、キリスト教系が16名、その他は神道系、新宗教系。男女比率は130:51（実数）。

11/01 『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第12号

2018

02/19 臨床宗教教養講座スクーリング2（～02/19）

03/05 一般社団法人日本臨床宗教師会
第1回「認定臨床宗教師」資格認定証授与式
（上智大学四谷キャンパス）

公開講演：大村哲夫
「考える倫理：臨床宗教師の目指すケア」

臨床宗教師養成開始から6年にして、「認定臨床宗教師」資格制度開始！
資格認定を受けた146名の宗教者のうち、東北大学の講座修了者は101名。実践宗教学寄附講座は臨床宗教師養成教育プログラム実施機関の一つとして登録。
資格を認定された臨床宗教師は、臨床宗教師倫理綱領を遵守し、各地の臨床宗教師会に所属して活動を行なう。定期的にフォローアップ研修を受講することによって５年ごとの資格更新に備える。

04/01 **履修証明プログラム「臨床宗教教養講座」（第2期）**
04/01 修了者22名（うち宗教者15名）
履修証明プログラム「臨床宗教実践講座」（第１期）
修了者17名（うち宗教者13名）

臨床宗教教養講座の修了者を対象とした臨床宗教実践講座が開始。医療・福祉施設での傾聴実習と5回のスクーリング（1泊2日）による１年間の講座。受講料10万円。

2018年度の臨床宗教実践講座スクーリングは次の日程で実施された。
(1) 05/14～05/15
(2) 06/11～06/12
(3) 07/09～07/10
(4) 10/01～10/02
(5) 11/26～11/27
合宿施設は仙台市茂庭荘。

05/15 『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第13号

08/20 臨床宗教教養講座スクーリング１(～08/21)

02/18 臨床宗教教養講座スクーリング2（～02/19）

2019

04/01 **実践宗教学寄附講座（第4期）**

新たに3年間の設置が認められる。（2021年3月まで）。
高橋原（主任教授、兼任）
大村哲夫（准教授）
谷山洋三（准教授、兼任）
木村敏明（教授・兼任）
鈴木岩弓（顧問：教授・兼任）
寄附者：中山身語正宗、他。

04/01 東北大学大学院文学研究科
死生学・実践宗教学専攻分野を新設

東京大学（上廣死生学・応用倫理講座）、上智大学（実践宗教学研究科死生学専攻）、東洋英和女学院大学（死生学研究所）、等と並ぶ死生学研究・教育の拠点となる。
東北大学では宗教学専攻／死生学・実践宗教学専攻／実践宗教学寄附講座が連携して教育・研究を行う体制となった。

04/01 **履修証明プログラム「臨床宗教教養講座」（第3期）**
修了者23名（うち宗教者13名）
04/01 **履修証明プログラム「臨床宗教実践講座」（第2期）**
修了者15名（うち宗教者12名）

04/01 『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第14号

05/13 臨床宗教実践講座スクーリング（～05/14）
06/03 臨床宗教実践講座スクーリング（～06/04）
07/08 臨床宗教実践講座スクーリング（～07/09）
08/19 臨床宗教教養講座スクーリング１（～08/20）
10/07 臨床宗教実践講座スクーリング（～10/08）
11/11 臨床宗教実践講座スクーリング補講
12/09 臨床宗教実践講座スクーリング（～12/10）

実践講座の会場となった思ひ出の茂庭荘

《コロナ禍》

2020

02/17 臨床宗教教養講座スクーリング2（～02/18）

04/01 **履修証明プログラム「臨床宗教教養講座」（第4期）**
修了者17名（うち宗教者10名）

04/01 **履修証明プログラム「臨床宗教実践講座」（第3期）**
修了者16名（うち宗教者9名）

05/01 『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第15号

05/11 臨床宗教実践講座スクーリング（全面オンライン）

06/08 臨床宗教実践講座スクーリング（　〃　）

07/06 臨床宗教実践講座スクーリング（　〃　）

08/18 臨床宗教教養講座スクーリング１（　〃　～08/19）

10/12 臨床宗教実践講座スクーリング（合宿、～10/13）

11/16 臨床宗教実践講座スクーリング（合宿、～11/17）

12/07 臨床宗教実践講座スクーリング（合宿、～12/08）

2020年度の講座はコロナ禍の中で始まった。臨床宗教教養講座はもともとオンライン講座であったため、影響は少なかったと言えるが、臨床宗教実践講座は、医療・福祉施設での実習と対面での会話記録検討会を中心とするため、困難な状況に直面した。スクーリングでのリモート併用、実習期間の延長、補講の実施などによってなんとか終えることができた。

翌2021年度も同様の対応で乗り切ることができた。他大学の臨床宗教師養成講座の多くがストップしていた中で、東北大学が講座を続けられたのは、実習先を受講生が個別に開拓するという方式が柔軟性という点でプラスに働いたものと考えられる。

2021

01/18 臨床宗教実践講座スクーリング補講

02/13 福島沖地震（仙台市震度5強）

02/15 臨床宗教教養講座スクーリング2（～02/16）

04/01 **履修証明プログラム「臨床宗教教養講座」（第5期）**
修了者20名（うち宗教者14名）

04/01 **履修証明プログラム「臨床宗教実践講座」（第4期）**
修了者15名（うち宗教者10名）

05/01 『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第16号

2021年度の講座実施状況については次頁以降をご覧ください。

2022

03/16 福島沖地震（仙台市震度5強）
翌03/17をもって茂庭荘営業終了（河北新報3月19日）。

04/01

実践宗教学寄附講座（第4期、延長）

履修証明プログラム「臨床宗教教養講座」（第6期）
受講者（修了予定者）22名（うち宗教者12名）

履修証明プログラム「臨床宗教実践講座」（第5期）
受講者（修了予定者）17名（うち宗教者12名）

2023年3月31日までの1年間延長が認められる。
寄附者：寄附者：中山身語正宗、他。

両講座、受講料12.5万円に改定。

05/15 『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第17号

2021年度履修証明プログラム報告

臨床宗教教養講座（第5期）

修了者：20名（男女比 12:8）
宗教者14名、医療従事者等6名
開講科目（オンライン授業：各90分×10コマ）
【前期】宗教学死生学入門（鈴木岩弓・高橋原：60分）、宗教学I（木村敏明）、宗教学II（高橋原）、死生学I（大村哲夫）、実践宗教学I（谷山洋三）、スクーリング
【後期】宗教心理学（高橋原）、実践宗教学I（谷山洋三）、実践宗教学II（オムニバス）、応用死生学I（大村哲夫）、応用死生学II（谷山洋三）、スクーリング

臨床宗教教養講座は今年度もGoogle　Classroomによって提供されました。２年目ともなると教員が操作に慣れたこともあり、スムーズに進んだと思いますが、Google側の都合で突然仕様が変更されるのが不安なところでもあります。

感染症対策のために今年度もスクーリングはオンラインでの実施となりました（8/23-24、2/28-3/1）。また現場の宗教者を招いてのオムニバス授業も実施できなかったので、前年に続き2020年度の録画を使用しました。

受講者のみなさんも日頃オンラインツールを使い慣れている人が多い印象で、講義やロールプレイはZoomで行われました。

２０２１年度受講者のうち、17名（宗教者12名）の方が、2022年度の臨床宗教実践講座（第5期）へ進むことになりました。

臨床宗教実践講座（第4期）

修了者：15名（男女比 6:9）
宗教者10名、医療・福祉関係者5名
実習：120時間　講義：10時間　グループワーク：40時間
学外SV：木村登紀子、森田敬史、高橋悦堂、眞如晃人

臨床宗教実践講座は、コロナウィルスの蔓延状況の合間を縫って、スクーリング４回を仙台市郊外の茂庭荘での合宿形式で行うことができました（オンライン併用）。茂庭荘が一時休業となった10月には、立正佼成会仙台教会をお借りしました（宿泊は個別）。

医療従事者など仙台に来られない受講者のために補講や個別対応を行い、なんとか全日程を終えることができました。

5月17-18日　スクーリング（茂庭荘）
6月21-22日　スクーリング（茂庭荘）
7月26-27日　スクーリング（茂庭荘）
10月18-19日　スクーリング（立正佼成会仙台教会）
11月15-16日　スクーリング（茂庭荘）
12月13日　補講（オンライン）

女性受講者数が男性を上回ったことが第４期の特徴でしたが、誰が言い出したものかビンゴゲーム大会なども催され、和やかなスクーリングとなりました。研修は学びの場であると同時に、日頃の自粛生活でたまったストレスを発散する場でもあったのでしょう。しかし、その舞台となった茂庭荘が、3月の地震の影響を受けて閉館となってしまったのは残念なことです。2022年度の講座は仙台市内の本願寺別院をお借りして実施することになりました。

臨床宗教実践講座修了者の感想

臨床宗教実践講座を修了された方々に、２年間の履修証明プログラムの感想をいただきました。

中澤　征人

この講座に出願したきっかけは、親しい人の死への恐怖や悲嘆に対して何も出来ず、医療者として無力さを痛感した事であった。それゆえ、当初この講座やスピリチュアルケアに求めたものは「不安や悲嘆にある人を受容に導くためのスキル」であり、また宗教を学ぶことで「不安や悲嘆を消滅させる特殊な力（フォース）」が身につくのではないかという甚だ中二病的な期待を抱いていた。講座が進むにつれ自分の邪まな期待はことごとく消滅し、同時に「本当に傾聴を主体にケア対象者の傍にいるだけでよいのか？」という疑念を感じた。

疑念を抱きながらも傾聴を心がけていたところ、対象者の方が（部分的であっても）自己解決に至る場面を目の当たりにし、その効果を実感することになった。同時に、死と向き合うにあたり宗教や信仰が大きな存在を発揮することを再認識し、自分が宗教的背景を持たない事にもどかしさと無力さを感じた。

そのような考えが変化したのは、がん患者さんやその御家族を対象としたオンラインカフェでの出来事であった。それまで患者さんと医療者が中心であったカフェに同期受講生の方々をお誘いし参加して頂いたところ、カフェの参加者から「医療以外の話ができてよかった」や「いままで感じていた（宗教的な）疑問が解決した」という声が寄せられ、スタッフからも「新しい視点が加わった」「わたし（スタッフ）自身が救われた」と非常に好評であった（それ故、カフェのクリスマス企画で受講生が歌を披露させられる羽目になったが…）。

その時、「自分は医療とスピリチュアルケアをつなぐ役割をすれば良いのだ」と感じ、少し気が楽になった。今後も自分にできる事からスピリチュアルケアに関わってゆきたいと思う。

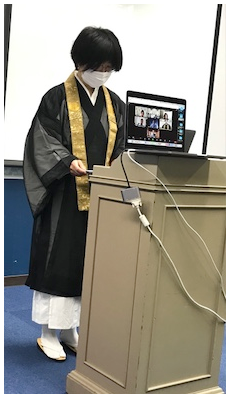
コロナ禍でいろいろな制約がある中、２年間にわたり講義とスクーリングを実施してくださった大学やSVの先生方に心より感謝申し上げます。また講座に関する事からそうでない事まで、気兼ねなく情報交換や雑談ができた同期受講生の皆様は非常に心強い存在でした。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

実践講座を修了して
夕部好代

臨床宗教実践講座を修了し、この二年間の履修プログラムを振り返って思わせていただくことは、「感謝」です。

履修プログラムを受講させていただくにあたり私には、新たなことを始める希望とともにたくさんの不安要素がありました。それは、コロナウイルス感染という悪環境であったり、実習先のことであったり、家族のことであったり。講座においても、本来は対面でしか味わうことのできないモノがあるとは思いますが、私は数回しかそれを味わうこともできませんでした。　それでも、その様々な不安要素を解消してくれたのは、先生方の優しい笑顔や、縁あって同期となった受講生の方々の存在でした。私は、その存在にどれほど救われたことか。



今後も続いていくと思われるコロナウイルス感染のなかで、どのようなことが私自身にできるか分かりませんが、私が心救われたように、どなたかの心の重みも少しでも和らげることができるように努めていきたいとも思っています。

諸先生方、スタッフの皆様、そして同期の皆様、二年間本当にありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願いいたします。

原井　美佳

思い起こせば2019年秋、その存在が聞こえ始めたCOVID-19が、その後の災禍として大きく広がるとは想像もしていませんでした。教養講座は、その影響を真っ向から受け、オンラインで開講していただくこととなりました。私の職である看護学教育の場におきましても、厳しい状況は続き、先生方が準備してくださった動画をなかなか視聴できずに、もどかしさを感じる日々でした。「今日こそは！」と思いながら、ふと気が付くと意識消失（寝落ち）しており、繰り返し視聴することもありました。（先生方、本当に申し訳ありません）

また、私が対面のスクーリングに参加できたのは一度のみで、これは大変残念なことでした。先生方、同期の皆さま方と、対面し語らう機会に参加できないことは、止む無といえども苦渋の決断でした。そのような中、一度の機会とはいえ、対面できましたことは、学びの証として、とてもありがたいことでした。

世界的なパラダイム・シフトの中、オンラインが通常となった昨今ではありますが、様々な制約や不都合があると、皆さまも感じておられることと思います。私も、このコロナ禍の始まりと同時にご縁をいただきました先生方、同期の皆さまとはなおさらのことと感じておりました。し

かし、画面越しの初対面では、マスクを付けない素顔を拝見することができ、豊かな表情から、それぞれのお人柄を感じることができましたことは、安心と親近感に満ちたものでした。

このような教養講座での学びを経て、その後、実践講座へと進みました。しかしながら、本当のところ、私はこの実習を完遂できるかどうか自信はありませんでした。そうはいっても、とにかく先生方のご支援のもと、頼りになる同期の皆さま方と一緒に進んでみようか・・・というのが、正直な気持ちでした。

実際に、なかなか実習を開始できない状況が続き、双方のワクチン完了と、日程の隙間を見出し開始できたのは盛夏の頃でした。やっと開始が叶った実習、毎回長距離バスで向かいました。野山を超え、青い海、時に白波、また山の深い緑が次第に紅葉し初冬へと移ろう様子を車窓から見ることができました。また、バスを降りての道すがら、潮の香、山の香、海から大地へなだれ込む嵐の音を五感で感じておりました。この道のりは、私にとって、日常を離脱し心洗われていくような、心和むひと時となっていきました。振り返りますと、これは、実習の場へ入らせていただくうえで、日常や職業的な自分を一旦脇に置くというトリガー的な旅（儀式）となっていたようにも感じられます。

こうして開始した実習において、実習先の皆さまは、多くのことを私に教えてくださいました。それは、言葉や表情を通して、あるいは表現されないことを感じようとする自身の在りよう、その場に身を置き、それは体感的な機会でありました。歩んできた道のり、楽しみ、悲しみ、苦しみ・・・本当にたくさんのことを聴かせてくださいました。ある女性は、郷土に伝わる漬物の技を教えてくれました。当時、漬物にちょうどよい大きさ、形、重さの平らな石を見つけると喜んで持ち帰ったこと、その石は次の世代が今も使っていること、また白菜の並べ方、重石のかけ方、カビの対処・・・等々、料理本には書いていない実に多くの知恵がありました。また、今日の「文化の日」の由来や風習、漁の最盛期のこと、灯篭流しのことなどをいきいきと語ってくださいました。また、どうすることもできない苦しみを聴かせていただく時、沈黙の中にも、その方と心響き合う微かな時を共有したように感じました。対する方も、わずかでもそのような瞬間を感じてくださったならと願ってやみません。

このような実習期間を通して、傍らに座らせてくださったこと、聴かせてくださったこと、その時の静かな時空を、私はこの先忘れないと思います。私の人生の中で、これほど濃い時間、体験はそうないだろうと思えます。

一方、実践講座の会話記録検討や、スピリチュアリティの形成を自問自答する過程は、自身のこれまでを振り返り、またこれからを考える機会となりました。最近のドラマのセリフに、「やっと、昔閉じた扉を開ける気持ちになった。」というような言葉があったように思います。この２年間の教養講座、実践講座での学びは、まさに私をそのような境地へ導いてくれました。今後は、今回いただきました多様な深い学びを、何らかの形で社会へ貢献できるように努力していきたいと思います。

末筆となりますが、この講座全般を通して多くのご教示をくださいました諸先生方、親愛なる同期の皆さま方、本当にありがとうございました。そして、実習施設の入所様とスタッフの皆さま、カフェ関係者の皆さま方、実習の機会をいただきましたことに、心から御礼を申し上げます。皆さまのご健康と安寧を祈念いたしまして、東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄付講座　臨床宗教学実践講座の学びへの思いとさせていただきます。

「対面サイコー」

小向　善幸

第4期は全２回のスクーリング含め全行程がオンラインとなり、個人的にはとてもありがたいことでした。コロナ禍以前から個人的にオンライン化を積極的に取り入れていたので、この流れはむしろ自然なものとして受け入れていました。

実践講座が始まる頃には対面でのスクーリングが開始され、憂鬱な側面が少なからずありましたが、幸いにも第一回目のスクーリングは所属教会の月次祭と重なり、オンラインでの参加となりました。そんな私が第二回目以降のスクーリングを通して起こった感情の変化から感じたことを記してみます。

当時の私は、オンラインでほとんどのことが完結できると考えていました。確かにオンラインでも対面と全く同じプログラムを受講することが可能ですが、圧倒的に不利な側面が雑談です。雑談をすることが極めて難しい。雑談をするためには、雑談をしても良さそうな雰囲気と空間が必要になりますが、対面では自然発生的にそれらが形成されます。オンラインでそれをやろうとすると、雰囲気や空間を改めて設定する必要があるので無理が生じてぎこちない。

プログラムの合間や休憩中の雑談から感じられる相手の人間性、カビ御殿の忘れられない香り、温泉に入ろうと思ってエレベーターを降りたらタオルを持ってきていないことを思い出して部屋に戻った肉体的・精神的苦痛、早くビールを飲みたいのに温泉での雑談が絶妙な盛り上がりなので上がるに上がれないもどかしさ、自動生ビールサー

バーにワクワクドキドキする自分の感情をつかまえ、そして目の前に座っている誰かと今日一日の感情に乾杯できた時、私は心の底から「対面サイコー」と諸手をあげて感動していたのです。

これらの雑談や、私のしょうもない感情は養成講座修了には全く関係のないことです。なくても困らない要素です。ですが、私たちが取り組もうとしているスピリチュアルケアの領域は、一見無駄に思える、でも実はその人を形成する極めて重要な部分なのかもしれない、と言うことを学ばせていただきました。これは自分にとってとても大きな発見であり、私の世界観を大きく広げる体験となりました。もちろん実習や研修の中で先生方や同期の皆さんとの学びを重ねたからこそ感じることができたのは言うまでもありません。対面はサイコーなんです。

そしてこんな私を対面でもオンラインでも温かくフルサポートで指導してくださったサイコーの先生方、そして志を同じくするかけがえのないサイコーの同期の皆さん、２年間サイコーにありがとうございました。私、生きてます。サイコーに。これからもよろしくお願いいたします。東北大学臨床宗教師養成講座サイコー。

実践講座を修了して
福﨑ひとみ

東北大学でご縁をいただき、かねてから念願だった死生学やスピリチュアルケアについて学ぶことができると喜んだのも束の間…、授業が始まり、課題に追われ…、ついてゆけるだろうか…、もしかしたら、私は、とんでもないところに足を踏み入れてしまったのかも？と、思う日々でした。

のちに、2020年の臨床宗教教養講座では120名以上の応募があったと聞き、幸い（奇跡）にしていただけたこの機会をネガティブな気持ちで過ごしていてはいけないと思いました。

続くコロナ禍での影響は多々ありましたが、諸先生方、SVの皆様の懇切丁寧なご指導、ご配慮のもと、授業も実習も不安を乗り越え、過ごすができました。心から感謝いたします。

スピリチュアルケアを学ぶとともに、成育歴を見つめなおし、内省に努めることを学んだ２年間は、これからも人と関わり協働して生きていく私の道しるべとなることでしょう。

ぜひ、地域の活動に役立てていきたいと思います。

そして、同期の皆さんにはたくさん支えていただきました。年齢や環境、職種も異なりますが、同期の皆さんの存在はとても大きかったです。情報交換はもとより、いろいろなことがつぶやけるラインは私の心の拠り所でもあり、まさにスピリチュアルケアだったように思います。ありがとうございました。

昨秋の月食の日、先日のピンクムーンの満月の日…。各地の同期の皆さんからラインで送られてきた月の写真を見ながら、同時に、我が家の窓から夜空の月を見上げ、離れていても時を共有し、つながっているとういう安堵感に、仲間っていいなぁと、とてもあったかい気持ちになりました。

家族もまた、夜中までパソコンに向かう私を見守り、応援してくれました。すべてに感謝です。豊かな時間でした。これからもしっかり悩んで齢を重ねていきたいと思います。

臨床宗教教養講座・実践講座を終えて
服部　恵子

新型コロナウイルス感染症とともに始まった教養講座、実習先の当てがないままスタートした実践講座でした。振り返りますとあっという間の二年間でした。教養講座ではオンライン授業のみでしたが、ミニットペーパーのやり取りのお陰でお籠り生活を楽しく過ごすことができ、お忙しい中返信してくださった先生方に感謝申し上げます。

実践講座の実習として参加した「こども食堂」「フードパントリー」は給食のおばちゃん、食糧配給のおばちゃんという感じで、これでいいのかと悩みましたが、一緒に作業している方のお話を聞いていることが多くなり「アッ、これは傾聴しているってことかな」と気付きました。皆で暑い鍋をかき回し、並んでいる子どもたちにカレーを山盛りもって、アイスクリームのお替わりを四回もしに来た子に「お腹壊すから、今日はおしまい」と言い、ボランティア参加の臨床心理士を目指し受験勉強している高校生の相談にのってと、一度に幅広い年齢層の皆さんと関わり本当に楽しかった。

オンラインカフェも本来は対面でしたが新型コロナによりZOOM開催となったところが多く、日本各地のカフェに参加出来たことにより、地域の特色の違いがよく分かった。例えば関西近辺のカフェの癌患者さんは比較的話し方にパワーがあり、大病で辛い時のことも明るくお話しな

さって、患者さん同士の突っ込みもあり、その明るさと楽しさに患者さんと話しているのを忘れるぐらいでした。

宮城県栗原市の「カフェ・デ・モンク」に参加し、金田諦應先生が被災者の皆様と垣根がなくすっと肩を並べて自然に話す姿に深い学びを得て、私も皆さんと一緒に久しぶりに心の底から笑う楽しさを味わいました。

感染症の流行の影響で多方面に実習に行くことになったが良い経験ができ、これからも幅広い活動に参加できること、実習先でお世話になった方がお亡くなりになる直前まで応援してくださった笑顔が、今でも背中を押してくれていること全てに感謝です。

そして、全体を通して実習中に講義に即した内容の話になることが多々あり、先生方のお顔が浮かび心強く嬉しい気持ちになりました。

二年間、学びの機会を与えてくださり有難うございました。

本講座の受講を終えて

椎名 一彦

「待ってろよ、仙台！」。大声で叫んだのは、2020年2月のスクーリングを終え帰路につく東北新幹線の車内だった。職場の体制変更に伴う対応に追われ進級を断念した私は、悔しさと惨めさ、心の拠り所を喪った怒りや絶望に打ちひしがれ、ただただ怒鳴り続けることしかできなかった。むろん心の中の叫びだったので、車中の乗客に不審がられることはなかったが、代わりに悲嘆に満ちた想いも分かってはもらえなかった。そんな中、妻から突如届いた１通のLINE。「余裕ができたらまた再開するんでしょ。だから最後じゃないよ」と。普段は「ただでさえ仕事で忙しくしてるのに、（受講して）自ら忙しくするなんて物好きだねぇ」と笑っていた妻が一番自分の気持ちを理解してくれていたのだと感激するとともに、この１通のLINEが以後の私を支えてくれたように今でも強く感じている。

それだけの強い信念を持ち受講した2021年度の臨床宗教実践講座だったが、いざ修了してみると意外と達成感がないことに苦笑している自分がいる。おそらく、これは実習やスクーリングを通じ発見した自己の課題が「気づき」だけで終わっており未だに解決できていないこと、自身の課題と向き合うために本講座修了後は木村登紀子先生が関わられている千葉県内の研究会で継続学習をすることになったこと、スピリチュアルケア師資格試験が7月に待ち構えていることなど、まだまだ道半ばである状況があるからだろう。また、何より、研修を通じて頂いた御縁による絆を「修了/終了」にしたくないという「継続性」を求める想いが私の達成感を預かっているのだと思う。

臨床宗教教養講座では、新たな知識体系や多様な価値観に触れ、自身の中で言語化できていなかった想念が言語化され体系化される心地よさやパラダイムシフトが起こる新鮮な快感を味わったり、故人である母や祖母に対し正統な宗教儀礼に基づく供養ができていない自身に赦しが与えられたりする一方、未知なる概念を感覚的に受け止めることができず、必死で脳を絞り、ミニット・ペーパーを記述することもあった。今思えば、必死すぎて、つま先立ちでの背伸びをしていたのだろう。高橋原先生から頂いた「もっと肩の力を抜いて」の言葉の意味がようやく分かり、今更ながら照れくささを感じている。

臨床宗教実践講座に進んだ後も、鎧で身を固めた状況は変わらなかったが、会話記録検討会の際、大村先生や同期生の皆さんから頂くご指摘に自身の鎧の厚さを実感する一方、サポーティヴなご指導のおかげで、スクーリングを重ねる毎に一枚一枚、鎧が脱落していくのを実感した。また、ある会話記録検討会の際には、同期生からの素朴な問いかけに、ある患者様・ご家族に自身が（医療福祉相談員として）何もできなかったことへの悔しさ・自責の念…心の奥底にしまっておいた感情が一気に噴き出て嗚咽してしまったが、45歳のおじさんが人前で嗚咽するという失態（？）を契機に、何かが吹っ切れ、感情の扉の蝶番がバカになったような不思議な感覚に陥った。自身の中で抑圧していた感情が滾々と湧き出すようになり、以来、自身の感情と向き合うことが多くなったように思う。あの時の涙は「医療福祉相談員」としてのものだったが、本当は泣きたいくらいの苦悩をずっとしまいこんでいたんだなぁということにも気が付けた。

「相手のために役に立たなければならない」という想いが強かった分、理想と現実とのギャップに苦しみ、強い自責の念に駆られた１年だったが、谷山先生からは「自分を赦す」ことの大切さを教えて頂いた。自分を赦せるようになるにはまだ時間がかかりそうだが、その言葉を頂いた時に、ふっと心が軽やかになったことを今でも鮮明に覚えている。

また、実習先としてもお世話になった金田諦應先生からケア空間・時間の中で繰り広げられるダイナミクスについてご指導いただけたことも貴重な学びだった。今後もカフェdeモンクの活動を通じ、ケアアートの世界への探検を深化させていただきたいと願っている。

・・・この迷走した３年間を振り返ると、様々な想いや感情が蘇ってくる。茂庭荘でのナイト・ミーティングや「華美」御殿秘話等々、書きたいことは山ほどあるが、何より諸先生方やＳＶ・学校関係者の方々、実習先でお世話になった皆様、3期・4期の同期生の皆さん、研修参加に理解を示してくれた職場のみんな、そして陰ながら支え続けてくれている家族等々、ご縁による絆の暖かさを強く感じた３年間だったように思う。

東日本大震災は非常に多くのものを奪い、日常の根幹にあったものを崩し去っていった。故人やご遺族、関係者の方々の胸中を察すると今でも胸が苦しくなるが、その一方

で新たな絆が創成されているところに、人間の強さや可能性も感じている。地縁のない東北の大学で学びや知己を得られたことは、私にとって非常に大きな財産になったように思う。

ご縁による出逢いと絆にただただ感謝するばかりです。３年間、本当にありがとうございました。そして、今後とも何卒宜しくお願いいたします。

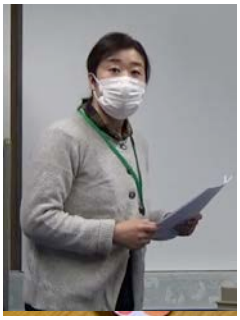
２年間を振り返って

結城　紀子

亡くなる前に多くの患者さんが経験する「お迎え」は、死にゆく患者さんにとって、どんな意味があるのだろうと、私はずっと疑問に思っていました。看護の研修や講演で、スピリチュアルケアやグリーフケアについて学んでも、死の文化的側面に触れることが少ないために心から納得することができませんでした。仙台の病院に勤務していたときから、臨床宗教師と岡部健医師の存在が気になり、いつか学ぶ機会があったらと思いながらも、信仰を持たない私が、応募してよいものか迷いはありましたが、学ぶ機会を与えていただき、とてもうれしかったです。

オンライン授業は、ラジオのリスナーになったようで、懐かしかったです。自分では思いもしなかった考え方が紹介されると、なるほどなぁ、と感心しました。教養講座は、通勤の車の中で聴き、自宅でわからないところに戻って聴き、課題を提出する日々でした。夜勤明けで眠くても、自分の興味あることを学んでいたので、かえって集中できました。

この２年間は、コロナのために生活がすっかり変わってしまいました。仕事柄、感染リスクを避けるため、県外に出ることを制限されており、対面スクーリングは11月の最終試験のときだけの参加となりました。皆さんが「カビ御殿」と愛してやまない茂庭荘は、レトロな雰囲気で楽しかったです。建物は歴史を感じましたが、掃除が行き届いて食事がとてもおいしく、低価格で頑張っていたのに、3月の地震で廃業されるのはとても残念です。このスクーリングでわかったのは、茂庭荘の魅力だけではなく、対面で生身の人間同士が放つ雰囲気です。オンラインでお顔だけは知っていたものの、実際に会って話してみると、その人のもつ魅力がよく伝わってきました。私が宗教者の方と接するのは、冠婚葬祭のときだけで、いわば仕事の顔しか知りませんでした。様々な宗教の信仰をお持ちでも、みんな普通のひとなんだな、というのがわかりました。職種は違っても、ケア対象者に関心を寄せ、一緒に苦しんだり、悩んでいる同志が全国にいると思うと心強くなりました。



事例検討会は、私にとって学びと癒しの時間でした。事例をまとめるときは「ああすれば良かった」と後悔ばかりでしたが、事例検討会で別の視点を指摘されると、「そういう見方もできるのか」と気が楽になりました。メンバーの皆さんに思いを受け止めてもらえた実感は心地よく、ケア対象者にも、この感覚を感じてもらえたらよいな、と思いました。

「相手の気持ちを想像しなさい」とはよく言われましたが、「自分の感情に目を向けなさい」と言われたことは皆無だったと思います。なぜ、その感情が起こるのか。自分の成育歴を振り返ると「三つ子の魂百までも」だなぁと思いました。人生折り返しの40代で、自分の感情のクセに気付けたのはよかったと思います。自分を認めながら、患者さんのそばで、戸惑う思いを受け止めたり、死に向かう日常のなかでも小さな喜びを一緒に喜んでいくことができたらいいなと思います。何かしようとしなくても、思いを受け止めることが大切なんだと気づきました。あるがままの相手と自分を認めることもケアの一面であるとわかりました。

最後に、コロナや地震があっても、歩みをやめずに、私たちに学ぶ機会を与えていただきありがとうございました。東北大学の皆様に深く感謝いたします。

武田　景子（真宗大谷派）

「僧侶と結婚した元自衛官が得度したので、臨床宗教師を目指してみた」

ラノベのタイトルみたいですが、私のざっくりした紹介はこの様な感じになります。５年くらい自衛官をしていましたが、震災前に辞めています。坊守歴は約16年になりますが僧侶歴は現在４年目の新人です。現在とあるコーヒーショップで働いています。面白い職歴ですねとよく言われますが、すべて今の自分につながるのに何一つ無駄になっていないと思っています。

チャプレンという言葉は在隊中に先輩から海外の軍隊にいることは聞いていましたが、自衛隊にはそういう職種が無く、東日本大震災の時に出動している同期の「人を掘り出せるけど…それ以上ができないんだよね…」という言葉を聞いた時日本にはなぜいないのだろうと思いました。あの言葉が無かったら私は講座を受講していなかったと思うくらい強烈な無力感を味わいました。そんな時にたまたま坊守研修会に参加していた方から東北大で臨床宗教師の講座始まるよと聞き、応募したのがきっかけです。

私の中で、実習や研修を受けるうちに「挑戦」「献身」「誠実」の三つの言葉が私のメンタルをかなり支えていることに気が付きました。これは自衛隊にいた時毎朝唱和していた「自衛官の心構え」です。まるで正反対のような現場なのに、これほどしっくりくる言葉があったのかと気が付いた時にとても驚き、困った壁にぶつかったときこの言

葉に私は知らないうちに救われました。今もたまに困ると小声でつぶやきます。

この一年間の実習は患者さんの入れ替えが激しい緩和ケア病棟に通わせていただきました。次に行くと「またね」と行ってくれた患者さんが三日後には居ない、という事がよくありました。実習と仕事と家庭とお寺の掛け持ちは忙しい毎日で、途中体調を崩し３か月で５キロ痩せたり（現在はすっかり戻り、リバウンド王と名乗れそうです）しんどいなと思い辞めたいなと思ったりもしましたが「また話しようね」と言ってくれる患者さんの顔や、一緒に頑張っている同期の顔を思い出し「よし、挑戦しよう！」と思えました。

全スクーリングが終わり、２年間の講座はスクーリングの合間の雑談でさえも諸先生方や同期にたくさんのものを学ばせていただきました。本当にありがとうございます。ただ心残りなのは高橋先生との腕相撲に一度も勝てなかった事で、機会があればリベンジしたいと思います。

おかげさまでこの２年間でずいぶん自分は変わったように思えます。今後は今までよりクリアに見える世界でこの経験を忘れることなく、怖がらず一歩踏み出していこうと思います。

会えない分、会えた時の嬉しさが倍増

岸　　弘之

コロナ禍の中、教養講座のスクーリング２回はオンラインになり、実践講座になると対面参加とオンライン参加のハイブリッドでスクーリングは行われました。私はすべて対面で参加しましたが、ほとんどの方とスクーリングで直接お会いできたのが私にとってとても大きな収穫でした。

というのも、オンライン参加だと込み入った話がなかなかできませんが、直接お会いすると、休憩中に実習のことやそれぞれの置かれたお立場などをお聞きできて講座の幅が広がってくるとともに、臨床宗教師・スピリチュアルケア師という資格の内容から、直接会って話すということの大切さを改めて実感することができました。

コロナ禍だからこそ直接会うということが人間にとってとても大事なことかを学んだ２年間だったようにも思います。それも先生方・ＳＶの方々・受講生の方々・実習先でお会いした方々によってそのような思いにさせていただきました。この講座を通して出会った方々は私にとって財産です。

実践講座の当初はコロナ禍で実習先が思うように見つかりませんでしたが、最終的には４つの実習先に恵まれ、さまざまな経験ができたことも大きな収穫でした。メインとなる緩和ケア病棟での実習は、講座終盤の１１月になって決まるという皆さんとは周回遅れのような状況でしたが、何とか実習を終えることができました。

気になるのはスクーリングでお世話になった茂庭荘が閉館ということです。地震の影響ということですが、今後のスクーリングの会場が気になるところです。違う見方をすれば新しい実践講座の幕開けとも言えるのではないでしょうか。ますます講座が発展することを願っております。

追伸：全国各地の受講生がおられたので、各地の美味しい差し入れをいただき、とてもうれしかったです。ありがとうございました。

二年間のご指導に、感謝を込めて

広瀬　満和（キリスト教会牧師）

第四期は、「教養講座」「実践講座」を通してコロナ禍での受講となった。初の緊急事態宣言下で、公務においても生活においても未曽有の出来事への対応に追われ、状況の把握も理解もできない戸惑いや不安を感じる中での開講であった。それにオンライン授業が初体験であることも加わって、初回の授業へのアクセスが一か月遅れるという失態を犯してしまった。わずか２年前のことなのに、振り返れば隔世の感がある。

六十の手習いとは言い古された言葉だが、期せずして地で行くこととなった。牧師となって15年余り、活動の場を教会の外に広げたいという思いで受講を決めた。もともといわゆる布教／伝道への関心は薄く、当初から宗教を持たない人への魂のケアに関わりたいと思って牧師の道を志したのだが、まずは本流を行けということで教会の中に入ることになったこともあり、自分としては満を持しての受講であった。「教養講座」では宗教空間／公共空間という概念化によって、自らの立ち位置が相対化でき目指すべき方向もはっきりとしてきた。意識は外へ外へと向かっていた。

しかしながら「実践講座」による学びによって、意識はむしろ内側へと向かい始めた。いま既に出会っている人たち、いま居るところで出会うだろう人たちとの関係性を見直すこととなった。それは紛れもなく、実習やスクーリングを通して自分自身を見直す作業が与えられてきたことの結果である。

私事であるが、受講を決めたのは母を亡くしたばかりの時期であった。それは同時に伴侶を亡くした父の介護の始まりでもあった。ただ職業柄もあり自分の性格も相まって、悲嘆も痛みも意識することなく比較的淡々と過ごしてきたように思ってきた。しかし振り返ってみれば、この二年間の受講体験が私自身のスピリチュアルケアになっていたように思う。母の不在、コロナ禍、父の介護、この二年間は私の人生の中でも、25年前の阪神・粟井大震災から始まった被災生活に匹敵するほどの大きな危機的時期であった。そんな時期に私の傍らにあり私を救ってくれたのが、この講座であったように思う。

学び得たことと同時に、これらの自己体験をこれからの活動に活かしていきたいと思う。いま与えられている場であれ、新たな空間であれ、出会う人の魂に寄り添うことのできる歩みをしていきたいと思う。

実践講座を修了して

山田　千鶴

私たちの受講期間はコロナ禍に始まり、ずーっとコロナと共に歩んだような２年間だった。私は教養講座受講申し込みをした時点で海外におり、あれよあれよという間にコロナが広がって、日本帰国のタイミングを逸した。幸いオンライン授業だったので受講は続けられ、2回のスクーリングも国外で受けた。時間帯が違うので、終了時間が夜中の12時近かったのを覚えている。色々大変なこともあったが、海外で日本人の死生観・スピリチュアリティーなどを学べたことにより、自分の中のキリスト教信仰と日本人として持っている魂に刻まれているようなものを俯瞰して考え、より深く味わえたように思う。

2年目はとにかく帰国し実習場所探しから始まった。幸い低所得者向けのホスピスが受け入れてくださり、実習をスタートすることができた。入居している方々はとにかくユニークで、今まで出会ったことのないタイプの方ばかりだった。どの方も”生きる”ということに一瞬一瞬向き合われていて、生きることの原点みたいなものを教えられたような気がする。

一番大きな体験は、お看取りに立ち会ったことだった。その方は数日前から強い痛みを訴えられておられ、痛み止めはもう制限なく使いましょう、という状態だった。その日は朝から「もしかしたらここ数日かも」ということで、スタッフの誰かが寄り添うようにしていた。とはいえ朝、お声がけした時は少し笑って、手をあげてくださったので、私はまだ実感を持っていなかった。その時はお昼すぎ、ちょうどスタッフが手薄になる時間帯にやってきた。たまたまお部屋をおたずねすると、呼吸の状態が変わっていた。2人のスタッフが両側から手を握り、お名前をお呼びする中、答えるように2回大きな息をされ、静かに息を引き取られた。病院の中のように器具が触れ合うガチャガチャという音もなく、大声で呼び合う声もなく、本当に穏やかな午後、静かなひと時だった。それは、これからの私のスピリチュアルケアの歩みの原点になる体験だったと思う。

実習中はほぼスタッフと同じように動き回っていたので、ゆっくりとお話をうかがう時間をどのように作り出せばいいのか、会話記録は書けるのか、などの心配もあったが、不思議と入居者の方のほうからお話のチャンスを頂いていたように思う。「寄り添わなきゃ、寄り添わなきゃ」と思っていたが、スタッフや入居者の皆さんから私も寄り添っていただいていたのだと感じる。

この２年間、講座の先生方、講師の皆さん、一緒に受講していた受講生の皆さん、本当にありがとうございました。私たちはこれからがスタートです。今後ともよろしくお願いします。

各地の動き

臨床宗教師会の活動報告

各地臨床宗教師会の基本情報と活動の概要を掲載します。掲載項目は次の通りです。
(1)役職者、(2)会員数、(3)認定臨床宗教師数、(4)活動の概要

北海道臨床宗教師会

近年の世界の大きなテーマは、世界中で新型コロナ・ウイルスの影響を受けながら、この状況からどのように回復を目指すか、それぞれが模索し、試されているということでした。北海道臨床宗教師会も立ち上げ当初から、同じ問いかけを受け、活動を模索してきたといえます。その最中、さらに追い打ちをかけるようにロシアがウクライナを侵略するという暴挙が起こりました。世界と人々が疲弊するなかで、いっそう疲弊するような出来事を、ウイルスではなく人間が引き起こしています。人間の負の部分や不合理な部分によって生じたものだといえます。こうした中、改めて宗教や宗教者の信仰しているものが問われるはずです。平和、慈悲や愛と実践が求められます。北海道臨床宗教師会も今一度、人々の安寧のための実践に取り組んでいこうと決意するものであります。

また、2022年度は役員の改選を迎え、新体制の元、歩みを進めることになります。会員相互が支え合いながら、臨床宗教師の実践を盛り立てていけたらと願う四月です。

(1) 代表：小林茂
　世話人：足立隆厳
　事務局：眞如晃人
　監査：米本智泉
(2)会員数：10名 (2022年4月現在)
(3)認定臨床宗教師数・７名
(4)今後の予定
四月末に総会を実施します。その後、資格更新をむかえる会員のフォロー、会員相互の交流に力をいれていく予定です。また、FU研修、活動展開の手助けになるような北海道版のパンフレット作成といった事業も検討中です。

東北臨床宗教師会

（１）役職者
○会長：金田諦應　　○副会長：松谷寛元、佐藤恵子
○理事：小山田和正、三浦賢翁、渋谷真之、李明信、奥原幹雄、及川寿美子、阿部頌栄、松山宏佑、田中嘉章、新田忍澄
○監事：吉田俊英、氏家栄宏
○事務局
・事務局長：高橋悦堂　　事務局次長：渋谷真之
・庶務：及川寿美子、松山宏成　　・会計：三宅大哲
○顧問：鈴木岩弓
○カフェデモンク事業委員
・委員長：金田諦應　・副委員長：吉田裕昭　・委員：新田忍澄
○「宗教者による電話相談」事業委員
・委員長：松山宏佑　・副委員長：高橋悦堂　・委員：坂本顕一、斎藤永子
○広報事業委員
・委員長：三浦正惠　・副委員長：奥原幹雄
○研修事業委員
・委員長：吉田俊英　・副委員長：金田諦晃　・委員：小山田和正、妻鳥紘明
○岡部医院連携事業調整担当：吉田彦英
○倫理委員
・委員長：古林俊晃　・倫理委員：吉田裕昭、細谷朋子
（２）会員数59名（正会員54名、準会員5名　2022年3月末）
（３）認定臨床宗教師数27名（2022年3月末）
（４）活動状況（2021年4月～2022年3月）
○カフェデモンク
・毎月開催　カフェデモンク＠ピース訪問看護ステーション
・2021年11月6日　宮城県大郷町仮設談話室
・2022年2月25日　第一回カフェデモンクサミット「えりもカフェデモンクからの報告」
・2022年3月11日　石巻市新蛇田第一集会所
○「宗教者による電話相談」
・毎月第2、第4水曜日15時～21時　0120-783-643
・2021年5月19日　電話相談担当員研修
○東北臨床宗教師会ＨＰ運営 https://www.ht-rinshu.com/
○研修事業　＊特別の記載がない限り全てオンライン開催
2021年
・5月15日　【活動記録検討会】　ＳＶ：金田諦應氏
・7月11日　【会話記録検討会】　ＳＶ：髙橋悦堂氏
・9月18日　【ＳＣに関する講義】
講師：神谷浩平氏　MY wells 地域ケア工房　緩和専門医
演題：「臨終の過程について　～より良いケアと命の道しるべ～」
・11月9日　【ＦＵ研修】
【会話記録検討会】　ＳＶ：高橋悦堂氏
【活動記録検討会】　ＳＶ：高橋悦堂氏
【倫理講義】　講師：谷山洋三氏

2022年
・2月5日　【ＳＣに関する講義】
講師：高木慶子氏　　上智大グリーフケア研究所名誉所長
演題：「臨床宗教師の使命」
〇医療機関などからの活動依頼を受けて会員を紹介（継続活動含む）
・医療法人爽秋会岡部医院仙台・宮城県立がんセンター・岩手県立中部病院・岩手県盛岡少年院・医療法人松田会松田病院
〇メディア紹介等
・2022年2月号　　トヨタ財団広報誌ジョイントNO38号「ケアと語り」
・2022年3月7日　　河北新報「カフェデモンクサミットについて」
・2022年3月10日　NHK「あさイチ」　カフェデモンク@ピース訪問看護ステーションの紹介
・2022年3月10日　仏教TIMES「カフェデモンクサミットについて」
・2022年3月11日　文化時報「カフェデモンクサミットについて」
・2022年3月24日31日合併号　仏教TIMES
「移動傾聴喫茶　カフェデモンク11年目の3.11　天災・疫病・そして戦争」
・2022年3月16日～（再放送）　NHKインターナショナル「Direct Talk」
〇講演
・2021年10月11日　宮城県保険医協会
演題：　「臨床宗教師による看取りとグリーフケア　～宗教者によるケアの特性を考える～」

関東臨床宗教師会

(1)代表：井川裕覚、副代表：大島慎也、田中靖隆、堀口哲哉
理事：池内龍太郎、木村雅恵、中村吉基　会計：鈴木智雄
事務局長：三善恭子　　事務局員：清永惠子、菅原耀
監事：高橋一晃・西郊良俊
倫理委員長：池内龍太郎　　顧問：伊藤文雄、島薗進
相談役：伊藤高章、葛西賢太、小西達也、佐藤慶太、曽根宣雄、森田敬史（順不同、敬称略）
(2)会員数：正会員 70名、准会員 10名、賛助会員 ３名
(3)認定臨床宗教師数：59名
(4)活動状況（2021年4月1日～2022年3月31日）
総会：6月29日　Zoom開催
FU研修
①第15回FU研修　6月29日～30日　Zoom開催
講義「スピリチュアルケアと日本の自然風土と宗教文化」：鎌田東二先生（上智大学）
倫理講習：谷山洋三先生（東北大学）
活動報告検討会：SV谷山洋三先生
会話記録検討会：SV谷山洋三先生、森田敬史先生（龍谷大学）
②第16回FU研修　10月6日　Zoom開催
講義「〈対話的自己論〉とスピリチュアルケア」：伊藤高章先生（上智大学）
会話記録検討会：SV伊藤高章先生
活動報告検討会：井川裕覚代表
③第17回FU研修　12月17日　Zoom開催
倫理講習：大村哲夫先生（東北大学）
会話記録検討会：SV大村哲夫先生、葛西賢太先生（上智大学グリーフケア研究所）
活動報告検討会：SV葛西賢太先生
④第18回FU研修　2月16日　Zoom開催
講義「病院における宗教者の『死者へのケア』」：山本佳世子先生（天理医療大学）
活動報告検討会：SV西岡秀爾先生（上智大学）
⑤倫理に関するミニ勉強会　2月22日　Zoom開催
講師：葛西賢太先生（上智大学グリーフケア研究所）
テーマ：倫理勉強会①～臨床宗教師の活動をどう説明するか～

中部臨床宗教師会

新型コロナウイルスの流行が始まって２年余が経過しました。昨年末には一時収束するかに見えましたが、年を越すと、感染者数は増加に転じ、いまだ収まる気配は見えません。このような状況の中、昨年度の中部臨床宗教師会の研修会等の諸行事も、会員が集合して実施することができず、オンラインでの開催になりました。

中部では、「カフェデモンク水都おおがき」（大垣市）、「カフェデモンクなごやか」（名古屋市）、「Mie de Monk」（松阪市）の３か所でカフェを実施していますが対面での活動が制限されたり、zoomでのオンライン開催となったりしています。一刻も早く新型コロナウイルスの流行が収まることを望むところです。

中部臨床宗教師会ではさる2月27日に定例総会を開催し、役員の改選が承認されました。新体制で今後２年間、会の運営を行っていきます。令和４年度の事業もオンラインが中心になりますが、可能であれば対面での研修を実施したいと考えています。

(1)役員
会長：坂野大徹、副会長：松本峰哲、事務局長：田中至道、会計：服部あずさ、役員：倉田恒雄　佐藤琢麻　長島美稚子、監事：加藤豊彦　不破英明、倫理委員長：森田恭一郎、顧問：大下大圓・沼口　諭
(2)会員数：52名（正会員:48名、准会員:4名）
(3)認定臨床宗教師数:32名
(4)活動の概要〈2021年度〉
・カフェデモンク水都おおがき（岐阜県大垣市）
開催日：祝日を除く毎週月・水・金曜日の午後1時30分～午後4時　月/11～12回開催

開催場所：メディカルシェアハウス・アミターバ　参加スタッフ：3名　（臨床宗教師）
外部の方を対象としたカフェ活動を中止しており、アミターバの入居者様とそのご家族様を対象とした活動に限定し行っている。
・カフェデモンクなごやか（愛知県名古屋市）
開催日：第三日曜日（6月、8月を除く、年8回）
時間:午後2時～４時
参加スタッフ:3人（臨床宗教師2人、スピリチュアルケア師1人）
　今年度も感染状況を考慮しながら、そして参加者さんの様子など見て、対面、zoom、電話と形を流動的に変えながら、傾聴活動をしました。カフェといえど感染状況次第で、飲食の提供は中止してお菓子をお土産にお渡しするかたちにした時期もありました。せっかく頂いたカフェデモンクの看板ですので、名古屋市、愛知県で安心安全に語り合える場を増やしていく仲間大歓迎です。
・Mie de Monk（三重県松阪市）
開催日：毎月第４土曜日
開催場所 ：三重県松阪市内
参加スタッフ： 3名
来年度も感染状況を見ながら対面で、またオンライン(zoom)を活用しての開催も考えております。
・グリーフカフェ　さえずりの杜（愛知県半田市）
＊グリーフカフェ：毎月第2（金）13:30～15:30　市民交流センター内にて計12回の開催
＊イベント：3/30　地域交流の場としてさえずりの杜ミニコンサート開催予定
＊活動内容：　飲物提供　傾聴　ハープ演奏　アート体験（パステル・花材　瓢箪活用）
＊メンバー：10名（臨床宗教師　スピリチャルケア師　看護師　作業療法士　当事者）
＊活動の様子：参加者　2～7名　対面のみ。喪失の悲しみに向き合う時間、アートを活用し、活動に集中していただく時間、ただのんびりとくつろいでいただく時間等、参加者自身のお気持ちに合わせて過ごし方が選択できるような工夫を心がけた。継続してお越しになっている方は少数だが、死別後、相談する相手がいなくなったり、会社や家族には気持ちを出せない方が語りにきている。今後も関係機関との連携を図りながら活動を継続していく
＊HP　https://saezurinomori383.amebaownd.com/
〈2022年度〉
【フォローアップ研修】
第32回　5月14日（土）14:00-18:00
　講師：沼口諭先生、SV：谷山洋三先生
　会場：オンライン
　内容：活動内容検討会/会話記録検討会/講義
※沼口先生の講義は感染状況によっては対面でも可能になります。
第33回　7月31日（日）午前-夕方
講師：大下大圓先生
会場：飛騨千光寺
内容：ラビリンスウォーク/活動内容検討会/会話記録検討会/講義など
※感染拡大により開催が難しい場合は、オンライン研修へと切替へ研修内容を変更をして行う。
第34回　9月4日（日）14:00-18:00
講師：谷山洋三先生
会場：オンライン
内容：活動内容検討会/会話記録検討会/講義「倫理」
第35回　11月5日（土）14:00-18:00
講師：黒川雅代子先生、打本弘祐先生
会場：オンライン
内容：活動内容検討会/会話記録検討会/講義「グリーフケアに関して」
第36回　12月10日（土）14:00-18:00
講師：小西達也先生
会場：対面orオンライン
内容：活動内容検討会/会話記録検討会/講義

関西臨床宗教師会

１）役員及び運営委員会に関して
(1)役員並びに執行部
会長:野々目月泉　　副会長:吉本清信(会計・名簿管理・会則)
事務局長:上原慎勢(広報担当)
○理事:石原真　上原慎勢　打本弘祐　大河内大博　南部松見　野々目月泉　花岡尚樹　森田敬史　吉本清信
○監事:吉田敬一 森本勇
○相談役:鍋島直樹 黒川雅代子 杉岡孝紀 森崎雅好
○日本臨床宗教師会理事:野々目月泉
(2)運営委員会など
○倫理委員長:森田敬史　○研修委員長:花岡尚樹　○社会活動委員長: 南部松見
○事務局員:安井幹直

２）会員数及び認定資格保持者数
○正会員５８名(内認定臨床宗教師４２名)　準会員２名
○臨床宗教師研修指導者７名

３）令和3年度活動状況
(1)事務局扱い
○2021/5月総会(関西臨床宗教師会会員M Lにて)
○2022/1月年間活動報告提出
○2022/1/24新年会(オンライン開催)
(2)研修委員会
○フォローアップ研修会
①第７回　フォローアップ研修会
６/９(水)12:00～15:35(オンライン開催)　倫理講義：大村哲夫先生
参加者：出席者17名＋SV4名、会話提出6名、活動提出3名
②第8回　フォローアップ研修会

11/3(水)13:00～17:00(オンライン開催)　倫理講義：大村哲夫先生
参加者：出席者15名＋SV4名、会話提出6名、活動提出3名
○オンラインスピリチュアルケア講座
①　第１回　5/31(月)19:30～20:40
講題：「内観基本講座」～スピリチュアリティを支えるために～講師：吉本清信先生　参加者57名
②　第2回　7/6(火)19:30～20:40
講題：「スピリチュアルケアとは」　講師：柏木哲夫先生　参加者59名
③　第３回　8/23(月)19:30～20:40
講題：「人生の危機とスピリチュアルケア」　講師：窪寺俊之先生　参加者51名
④　第4回　9/13(月)　19:30～20:40
⑤　講題：「現代社会とスピリチュアルケア」　講師：高木慶子先生　参加者56名
⑥　第5回　10/6(水)　19:30～20:40
講題：「臨床宗教師とスピリチュアルケア」　講師：大下大圓先生　参加者46名
⑦　第６回　12/15(水)　19:30～20:40
講題：「現代日本の宗教とスピリチュアルケア」　講師：島薗進先生　参加者51名
⑧　第7回　1/19(水)　19:30～20:40
講題：「精神疾患とスピリチュアルケア」～わたしの体験から～　講師：申英子先生　参加者46名
⑨　特別講義　令和4/2/21(月)
講題：「我々のスピリチュアルケア実践を一段深める」　講師：小西達也先生　参加者48名
○府県別会話記録／活動内容検討会
①　奈良地域　5/10(月)　→緊急事態宣言のため延期
②　大阪南部地域　8/25(水)　→緊急事態宣言のため延期
③　大阪北部地域　9/6(月)オンライン開催　参加者（4名＋SV1名）　会話提出1名　活動提出1名
④　兵庫地域　10/28(木)→コロナ感染予防のため中止
⑤　京都滋賀地域　12/6(月)対面：参加者（4名＋SV1名）　会話提出2名　活動提出1名
⑥　和歌山地域　2/8(月)オンライン開催　参加者（２名＋SV１名）　会話提出１名　活動提出１名
(3)社会活動委員会活動報告
4/22「オンラインカフェデモンクin関西」　ゲスト5名（ビデオオフ２名）臨宗10名、
5/27「〃」ゲスト3名（ビデオオフ1名）臨宗9名
6/24「〃」ゲスト2名、臨宗6名
7/22「〃」ゲスト４名（ビデオオフ1名）臨宗10名
9/9「〃」　ゲスト４名（ビデオオフ1名）臨宗８名
10/14「カフェデモンクin京都・随心院」　ゲスト12名(内記者3名)臨宗9名
10/28「オンラインカフェデモンクin関西」　ゲスト5名(ビデオオフ1名)臨宗10名、特別ゲスト（金田諦應先生）
11/25「〃」ゲスト5名、臨宗10名
12/23「〃」ゲスト4名(ビデオオフ1名・欠席1名)臨宗10名
2022/1/7「〃」ゲスト4名（ビデオトラブル1名）臨宗８名
2/24「〃」ゲスト2名、臨宗７名
3/25「〃」ゲスト２名、臨宗８名
○その他
10/13付け「カフェデモンクin京都・随心院」(京都新聞)
10/21付け「カフェデモンクin京都・随心院」(文化時報)
(4)倫理委員会
・特にオンラインでの活動ならびに会員それぞれのFacebookやTwitter，ホームページなどを使った発信についての問題を提起し注意喚起を引き続き継続した。
・年間活動内容報告書や活動内容検討会も含めて，臨床宗教師としての立場の活動なのか，宗教者としての立場での活動なのかを，透明性をもって“明確に”区別できているか？（簡単に情報が収集できる時代だからこそ，違う“顔”で発信をしても，紐付けられることに注意が必要）
・オンラインの研修などにおいて，利便性が高まり参加しやすくなる一方で，関係のない人たちに情報が漏れる可能性がある場所（例えば，職場など）からアクセスしないようにしているか？
・オンラインでの傾聴活動であるオンラインカフェも軌道に乗りつつ，常連客としてご参加なさるゲストさんもいらっしゃることで，時に傷つけてしまう，なあなあの間柄になってしまわないように，適度な緊張感をもって立ち位置を認識しているか？
・ケア対象者との関わりにおいて，オンライン上ではその後のフォローが難しいため，もう一段の踏み込みを控えているか？そしてそれに慣れてしまって，今度は対面での関わりにおいて，控えめに関わってしまっていないか？
・オンライン傾聴活動において，オーバーリアクションであったり，はっきり分かりやすく伝えようとしたりすることでも，対面ではこちらの反応がケア対象者に伝わりやすくなってしまっていることをきちんと確認しているか？
・取材を通してメディアへの露出について，可能な範囲でそれぞれのメディアの視聴者に対して誤解を与えないように表現に気を遣っているか？
・守秘義務に関連して，ケア対象者に自分たちの情報が残されてしまうのではないかという不安を抱かれないためにも，記録（特にオンライン上で，録画や録音はもちろんだが，メモをとることなども）をとっていないか？例えば，オンラインカフェにおいて，ゲストの誤解を招くことになるので，手元でメモを取る動きが画面に映ることはあってはならない。
・安心して話ができる場を求めてこられるケア対象者にとって，“安全”が損なわれることが大変なショックに繋がり，不安や不信感などを生じさせてしまうことを心得ているか？
・実際の活動や研修などいろいろな集まりで収集された情報は，特段の注意書きがない限り，その集まりだけで使用されているか？
・上記を含めた倫理に関する事項に関して，全会員への周知にはまだまだ課題が残されている。

４）令和4年度事業計画について
(1)事務局事業計画
○総会・・・年1回、臨時総会・・・１月予定　○役員会・執行部会・運営委員会・・・必要に応じて開催　○諸団体・個人からの傾聴依頼問合せに対応　○HP・FBの更新　○名簿・年会費・研修費管理システム導入予定　○新年会…zoom開催　○年間活動報告書…例年通り１/１５締切　(地区臨床

宗教師会に提出)　○「訪問看護ステーション仁」同行訪問・・・月１回予定　○１０/２２　日本在宅医療連合学会近畿支部大会協力　於:稲盛記念館・入棺体験とカフェデモンク開催予定　○「カフェデモンクサミット」運営協力・「関西カフェデモンク」について発表依頼あり　○資格更新申請関連

(2)研修委員会事業計画

○フォローアップ研修

①6/8　倫理：大村哲夫先生（オンライン講義）②11月　倫理：谷山洋三先生（オンライン講義）

○府県別対面検討会

4月/和歌山検討会　7月/奈良検討会　9月/大阪兵庫検討会　11月/京都滋賀検討会

○スピリチュアルケアオンライン講座

5/26　柏木哲夫先生　　8/25　窪寺俊之先生　　10月中旬高木慶子先生　　翌1月小西達也先生

○追加検討会

12月中　資格申請対応

○その他

資格更新についての問い合わせ対応(適宜)

(3)社会活動委員会事業

○カフェデモンク

対面実施…①5/13(金)13:00～16:00京都・壬生寺にて開催　②10月京都・随心院にて開催予定　③10/22(土)日本在宅医療連合学会にて入棺体験と併せてカフェデモンク開催　④2023/2/6文化時報社百周年記念事業報道写真展にて講演(金田諦應師)に併せて開催

オンライン実施(第二木曜日)…４/28、６/９、７/14、９/８、11/10、12/８、１/12、２/９、3/9

その他…奈良カフェデモンク、大阪カフェデモンク準備中

(4)倫理委員会

・引き続き，会員のみなさんと倫理について考え，ともに倫理的配慮を心がけていくことができるように互いに切磋琢磨していくこと。

・倫理単発の研修の機会:令和3年度の課題を踏まえて，FU研修以外の研修や情報共有の機会を検討。第一弾として，倫理講習（Q&A）を，この度は倫理委員会扱い（倫理委員会内で了承済み）で開催予定。日程：8/6 (土)18:00～　会場：城興寺＋Zoom（ハイブリッドで実施）講師：大村哲夫先生（日本臨床宗教師会倫理委員会副委員長）倫理の諸問題に関して，会員の質問にお答えいただき，指導を仰ぐ。

中国地方臨床宗教師会

1)役員

代表：桝野統胤、副代表：堀靖史

会計：松本宜隆、庶務：和田隆恩、事務局：朋澤融智

2)会員数：19名

3)認定臨床宗教師数：13名

4)活動状況

フォローアップ研修　4月5日、オンラインにて。

カフェデモンク　休止中

オンラインでの顔合わせ会　不定期

役員会　2ヶ月に1回

四国臨床宗教師会

(1)代表:童銅啓純、副代表:岩佐隆昇、事務局:南千代、会計:田野妙秀

(2)会員数：6名

(3)認定臨床宗教師数：5名

(4)各会員の活動は感染症のため休止状態である。会も同じく研修会は開けず、亦、オンラインが不得意としてネット上でも研鑽が持てなかった。しかし、今期3名の入会と認定研修会が計画され活動が再開される。

九州臨床宗教師会

(1) 代表者等役員

代表世話人：信行一宏（福岡世話人兼務）

次期代表世話人：國友朋子、前期代表世話人：山口達也

監事：糸山公照

県世話人：久連松隆導　芦田もと子（熊本）、加藤理人（福岡）、山下亮恂（長崎）、樋口泰巧（佐賀）、井上孝彌（鹿児島）

(2) 会員数：（2022年1月現在）

45名（正会員39名　ケア会員6名）

(3) 認定臨床宗教師数：32名

(4) 活動状況（すべてオンラインで開催）

2021/2/15　　2021年度総会

2021/6/10　　第1回会員間研修

「そこが知りたい認定臨床宗教師資格更新」

山下会員が資料をまとめ、資格更新要件の確認を行った。

2021/7/8　　第1回カフェデモンク勉強会

「オンラインでカフェデモンクを開くために」

関西臨床宗教師会に協力要請。

2021/7/30　第2回会員間研修

「病室で念仏を唱える暇もない」

原会員による病院現場における、新型コロナとスピリチュアルケア

スピリチュアルケアに関する研究会として開催

2021/9/3　　第3回会員間研修

「ボランティアイデンティティ」

岩崎会員による熊本・球磨村での活動報告

研修会後、座談会

2021/10/29　　第19回FU研修

倫理講習・活動報告・会話記録検討会

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、思うようにケア活動を展開できなかったが、ピンチはチャンスということで、会

員の研鑽に重点を置き、活動を展開した。研修の枠として「会員間研修」という枠を設け、会員が講師となり、自らの経験や現場でのノウハウを共有する事ができた。2022年度も引き続きこの研修枠を残し、より深い研鑽に努めたいと思う。

また、今まで整備されていなかった九州内でカフェデモンクを開催するための手順をまとめた。このマニュアル作成にあたり、ベテランから新人まで様々な意見交換を行い、この活動を未来へとつなぐ一助となることを願う。

2022年度はこれまでの活動や運営体制の見直し・検証をおこない、時代や実情にあわせたアップデートを行いたいと思う。

日本臨床宗教師会

・認定臨床宗教師資格認定
2021年9月12日 11名
2022年3月8日　 9名

・第6回フォローアップ研修
開会式
倫理講義
2022年3月7日（月）上智大学（オンライン）
活動内容検討会　発表者6名
会話記録検討会　発表者6名
振り返り・閉会式

実践宗教学寄附講座活動報告

《2021年度開講科目　前期・後期》

「死生学：死から生を考える」「グリーフケア試論」（大村）、「宗教心理学（死者の力）」「スピリチュアリティと死生観」「宗教学概論（宗教と疫病）」(高橋)、「死生学文献講読」(高橋・大村)、「スピリチュアルケア」「宗教的ケア」(谷山)、「死とともに生きることを学ぶ」(竹之内裕文・集中)、臨床宗教教養講座(第5期)、臨床宗教実践講座(第4期)

《論文・寄稿》

Yozo Taniyama, Carl Becker, Hara Takahashi, Sadako Tokumaru, Iwayumi Suzuki, Kazuki Okui, Josef Gohori, Yosuke Imai & Takafumi Morita, “Listening to Sutra-Chanting Reduces Bereavement Stress in Japan,” in *Journal of Heath Care Chaplaincy*, 27(2): 105-117, 2021.4.

Becker, C.B., Taniyama, Y., Kondo-Arita, M., Sasaki, N. Yamada, S., & Yamamoto, K., “Unexpected Costs of Bereavement Grief in Japan: Patterns of Increased Use of Medical, Pharmaceutical and Financial Services,” *OMEGA: Journal of Death and Dying,* 83(1), 142-156, 2021. 5.

山本佳世子・谷山洋三「COVID-19感染拡大時のスピリチュアルケア提供者の活動状況について～スピリチュアルケア提供者へのオンラインアンケート調査より～」『スピリチュアルケア研究』5、121-131. 2021.8.

谷山洋三「第7章　スピリチュアルケアと資格」瀧口俊子・大村哲夫・和田信編著『共に生きるためのスピリチュアルケア』創元社、303-324. 2021.11.

Becker, C.B., Taniyama, Y., Sasaki, N., Kondo-Arita, M., Yamada, S., & Yamamoto, K. “Mourners’ Dissatisfaction with Funerals May Influence Their Subsequent Medical/Welfare Expenses: A Nationwide Survey in Japan,” *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 19, 486. 2022.1.

Becker C, Taniyama Y, Kondo-Arita M, Sasaki N, Yamada S, Yamamoto K. (2022) “Identifying bereaved grievers with greatest medical or social service needs in Japan. *Family Medicine and Community Health*. 2022 Mar;10(1).

谷山洋三「四苦八苦に応える臨床仏教ケアスタディ第10～17回 」『月刊住職』23巻-4～11、24巻-1～2、2020-2021.

大村哲夫「現代におけるスピリチュアルケア」瀧口俊子・大村哲夫・和田信編著『共に生きるためのスピリチュアルケア』創元社、303-324. 2021.11.

大村哲夫「随想：恋するグァテマラ」『東北宗教学』17、2021.12.31.

大村哲夫「困った時の頼み方：リファーのすすめ」『日本臨床宗教師会ニュースレター』9、2-3. 2021.6.1

大村哲夫「倫理講習のあり方」『日本臨床宗教師会ニュースレター』10、2-3. 2021.12.1.

高橋原「葬祭仏教と社会参加仏教」『近代日本宗教史第６巻　模索する現代—昭和後期～平成期』島薗進・末木文美士・大谷栄一・西村明編、春秋社、2021.7.20、pp. 77-105.

高橋原・堀江宗正（共著）『死者の力—津波被災地「霊的体験」の死生学』岩波書店、2021.9.10.

Hara TAKAHASHI, "Buddhist spiritual caregivers in Japan" in *The Routledge Handbook of Religion, Medicine, and Health*, London: Routledge, 2021.11.25, pp. 171-185.

《発表・講演》

2021.6.27　谷山洋三「東日本大震災によって生まれた臨床宗教師運動」東北大学東北アジア研究センター創立25周年記念講演会・国際シンポジウム、セッションB2「災害から生まれたもの　危機的状況下での死、災害遺物、文化遺産への対応」、online

2021.10.2　谷山洋三「臨床宗教師は病室で念仏を唱えるのか？」第26回日本臨床死生学会年次大会　シンポジウムⅠ「死者への追悼とスピリチュアリティ」、online

2021.11.14 大村哲夫「スピリチュアルケアと医療」日本スピリチュアルケア学会第14回学術大会、online

2021.11.15 高橋原「ケア従事者のための儀礼論試論」日本スピリチュアルケア学会第14回学術大会、online

2022.2.27　大村哲夫「子どもの慰霊と卒業証書：民間信仰と深層心理」日本心理学会認定心理士の会公開シンポジウム

他

寄附者

東北大学文学研究科実践宗教学寄附講座は宗教界など各方面からの寄附金によって維持運営されています。寄附者の方々をここに記し感謝申し上げます。

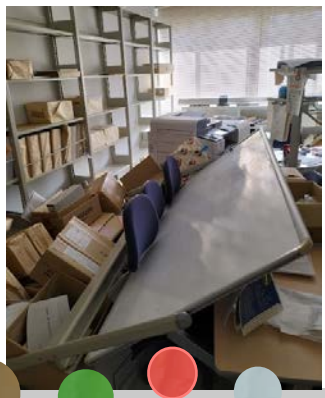
宗教法人中山身語正宗
一般社団法人日本宗教信仰復興会議
日 本 基 督 教 団
南西ドイツ宣教会
(EMS: Evangelical Mission in Solidarity)
宮城県宗教法人連絡協議会
全真言宗青年連盟
日本ナザレン教団
宗教法人みんなの寺
融通念佛宗音羽山観音寺
浄土真宗本願寺派真覚寺
真宗大谷派常念寺
天台真盛宗新光寺
天台真盛宗西念寺
融通念佛宗西方寺
曹洞宗島田地蔵寺
真言宗智山派大聖寺
龍谷大学実践真宗学研究科教員有志
宗教法人孝道山本仏殿
宗教法人妙光寺
医療法人徳養会
宗教法人平間寺
日本宗教連盟
日蓮宗実相寺
日蓮宗妙興寺
清水寺
秩父神社
竹駒神社
神習教
念法眞教
日蓮宗立像寺
曹洞宗崇禅寺
聖観音宗浅草寺
日蓮宗法音寺
曹洞宗洞林寺
應典院秋田光彦
天台宗円満寺
明川寺
有限会社仏教企画
曹洞宗北海道管区
密教２１フォーラム
日蓮宗高応寺
その他の方々
公益財団法人世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会
立正佼成会一食平和基金
真宗教団連合
真如苑
公益財団法人 新日本宗教団体連合会
一般財団法人　ありがとうインターナショナル
日本キリスト教協議会エキュメニカル震災対策室
財団法人東北ディアコニア
特定非営利活動法人神道国際学会
特定非営利活動法人世界開発協力機構

当講座は、全日本仏教会の「推薦団体」、日本宗教連盟の「後援団体」として認定を受けています。
ご寄附のお申し込みにつきましては下記までお問い合わせください。なお、寄附金には法人税法・所得税法による税制上の優遇措置があります。

東北大学文学研究科内実践宗教学寄附講座
TEL: 022-795-3831(FAX兼)
E-mail: j-shukyo@g-mail.tohoku-university.jp

編集後記

気がつけば、震災翌年の実践宗教学寄附講座開設から10年の歳月が過ぎ去っていました。本来であればこの節目に記念行事などを企画して然るべきであったでしょうが、コロナ禍に振り回される毎日の中でそのようなことを思いつく心の余裕を持てずに来たというのが率直なところです。昨年２月、そして今年の３月にも、大きな地震がありました。文学研究科の建物の9階では、本という本が棚を飛び出して床に散乱しました（写真は地震翌日の実践宗教学寄附講座の研究室です）。



地震後に、まずしなければならなかったことは、ドアが開くようにすること。次に足の踏み場を作ること。それから、とりあえず目に付いたものを手に取っては棚に戻し、壊れたものはゴミ箱に。そのようにして、2022年の新しい年度がスタートしました。（た）

東北大学実践宗教学寄附講座ニュースレター第17号
編集・発行 東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座
2022年5月15日（第1刷）
（このニュースレターのPDF版は右記サイトから閲覧できます）

各地臨床宗教師会連絡先

北海道　h.rinsyu@gmail.com
東北　ht.rinshushikai@gmail.com
関東　kanto.rinsyo.syukyoshi@gmail.com
中部　chubu.rinsyu@gmail.com
関西　info.kansai.chaplain@gmail.com
中国地方　ch5rinshu@yahoo.co.jp
四国　p005@me.com
九州　k.rinsyu@gmail.com

日本臨床宗教師会事務局
sicj@g-mail.tohoku-university.jp

実践宗教学寄附講座

主任教授　高橋　原　（兼任：死生学・実践宗教学、宗教学）
教授　木村敏明　（兼任：宗教学）
教授　谷山洋三　（兼任：宗教学, 死生学・実践宗教学）
准教授　大村哲夫
顧問　鈴木岩弓　（東北大学名誉教授）

980-8576
宮城県仙台市青葉区川内27-1
東北大学文学研究科内
実践宗教学寄附講座
022-795-3831(T/F)
j-shukyo@g-mail.tohoku-university.jp
http://www2.sal.tohoku.ac.jp/p-religion/

東北大学